

“生命”から考える 人類のめざすべき“社会”

今日の世界では、地球規模の気候変動や自然災害の発生、格差拡大等、社会課題が大規模化・複雑化しています。今後、人間中心的な超スマート社会が実現すると、これらの社会課題は解決するのでしょうか？日立京大ラボでは、「生命とは何か」という根源的な問いから、超スマート社会の先にある「人類のめざすべき社会とは何か」を推考し、課題解決のための価値創出に取り組んでいます。本シンポジウムでは、第一部の「生命とは一本能的なものの由来」、第二部の「社会とは一理性的なもののあり方」に関する研究発表を通じて、根源的問いから導出される価値の創生とその先にある社会づくりに迫ります。

日時 **2022.1.27** 木
13:00 – 15:00
(開場12:30)

主催 日立京大ラボ、京都大学
場所 Zoomウェビナーによるオンライン生配信
費用 無料
申込 下記Webサイトよりお申し込みください



<https://www8.hitachi.co.jp/inquiry/hqrd/event2/form.jsp>

※定員1,000名に到達次第、締め切らせていただきます。

プログラム [モデレーター] 兼松佳宏 (さとのば大学 副学長・NPO グリーنز 副代表)

13:00-13:05 開会挨拶

時任 宣博 京都大学 研究・評価・産学連携
担当理事・副学長

第一部 生命とは一本能的なものの由来

13:05-13:30 プラネタリー・バウンダリーの中で生きる生命

谷内 茂雄 京都大学 生態学研究センター 准教授

13:30-13:55 生命科学の未来：生命倫理の観点から考える

澤井 努 京都大学 高等研究院 特定助教

13:55-14:00 休憩 (5分)

第二部 社会とは一理性的なもののあり方

14:00-14:25 混生社会における共生のあり方

佐野 亘 京都大学 人間・環境学研究科 教授

14:25-14:40 多元的で多様な価値観を活かす社会

宮越 純一 日立製作所 研究開発グループ
基礎研究センタ 日立京大ラボ 主任研究員

14:40-14:45 休憩 (5分)

14:45-14:55 総括

兼松 佳宏 さとのば大学 副学長・
NPO グリーنز 副代表

14:55-15:00 閉会挨拶

鈴木 教洋 日立製作所 執行役常務 CTO
兼 研究開発グループ長

【第一部】 生命とは —本能的なものの由来—



プラネタリー・バウンダリーの中で生きる生命

人間による地球生態系の改変は、すでに地球の限界を超えたとされている。なぜこうなってしまったのか？持続可能な社会が満たすべき条件とは何だろうか？そのヒントを求めて地球生態系の成り立ちを進化的・生態学的に検討していくと、個体レベルと個体より上の生物の階層の構成原理には大きな違いがあることがわかってきた。



谷内 茂雄

京都大学
生態学研究センター 准教授



生命科学の未来： 生命倫理の観点から考える

急速に進展する生命科学。これまでSFで描かれていた様々な問題が、現実味を帯び始めている。生命科学の進歩は、人類に大きな恩恵をもたらしているが、判断を誤ると、後戻りできなくなるだろう。本講演では、生命科学の進歩を具体的に取り上げ、生命倫理の観点からその是非を考えるとともに、今後の生命倫理議論のあり方についても探究する。



澤井 努

京都大学
高等研究院 特定助教

【第二部】 社会とは —理性的なもののあり方—



混生社会における共生のあり方

今後、世界はますます混生的な社会になっていくと考えられる。そうした社会では、特定の理念や価値、アイデンティティを全ての社会構成員が共有して社会を運営することは難しい。混生的でありつつも、互いに快適に暮らしていけるような社会を構想していく必要がある。そのような社会はどのように実現していけばよいのか。さまざまな価値観や利害を持った人々が共生していくための、手法や知恵、考え方について検討する。



佐野 亘

京都大学
人間・環境学研究科 教授



多元的で多様な価値観を活かす社会

複雑化・多様化する社会課題は社会価値起点での解決が求められている。社会価値向上をめざす社会イノベーション事業は一企業だけの解決が困難で、多数のステークホルダーの協力が必要となる。本発表では自治体のエネルギー施策を例に、ステークホルダーの多様な価値指標を定量的に予測し、価値観に沿った施策決定を支援する技術について紹介する。



宮越 純一

日立製作所
研究開発グループ 基礎研究センター
日立京大ラボ 主任研究員